自　己　評　価　書

（平成２３年度）

平成２４年３月

鳴門教育大学附属幼稚園

目　　　　　　　次

Ⅰ　学校の現況及び目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　評価項目ごとの自己評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

　１．教育課程・指導　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

　２．保健管理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

　３．安全管理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

　４．組織運営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

　５．研修（資質向上の取組）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

　６．保護者・地域住民との連携　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

　７．教育実習　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

　８．センター的役割　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

　９．その他　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

Ⅲ　自己評価別添根拠資料一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

Ⅰ　学校の現況及び目的

１　現況

(1) 学校名　鳴門教育大学附属幼稚園

(2) 所在地　徳島市南前川町２丁目11番地の１

(3) 学級等の構成

３歳児１学級，４歳児２学級，５歳児２学級

保育課程　２年保育，３年保育

(4) 幼児数及び教員数(平成２３年５月１日)

幼児数146人　　教員数9人（正規教員）

２　目的

(1)目的・使命

本園の目的は，附属幼稚園園則第１条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして，幼児を保育し，幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて，その心身の発達を助長する」と定めるとともに，同条第２項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき，保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ，必要な情報の提供及び助言を行うなど，家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また，園則第１条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し，かつ，本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており，具体的には教員養成大学の附属幼稚園として，次のような使命をもった幼稚園でもある。

①大学と一体となって，教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究幼稚園としての使命

②地域の教育課題の解明，参観者への指導・助言，文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など，教育界の発展に寄与する使命

③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2)教育目標

本園は，園則第１条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため，次のような教育目標を掲げている。

①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。

②健康でたくましい心身を養うこと。

③それぞれのよさや違いを認め，育ち合う感性を養うこと。

④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。

⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3)めざす子ども像

本園は，教育目標に基づき，次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

○たくましい子ども

○しなやかな子ども

○育ちあう子ども

(4)平成２３年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし，中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら，次の４点から教育目標の具現化を図る。

①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。

②「遊誘財」研究を推進するとともに,幼小接続のための教育課程開発に取り組む。

③専門性や実践力を養う実地教育の充実に取り組む

④地域の幼児教育のセンター的役割を果たす。

(5)評価項目

①教育課程・指導

・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

・幼小の円滑な接続に関する取り組み状況

②保健管理

・保健計画の作成・実施の状況

③安全管理

・危機管理マニュアル等の作成・活用の状況

④組織運営

・園務分掌が適切に機能するなど，明確な運営・責任体制の整備の状況

⑤研修

・園内外における研修の実施及び参加状況

⑥保護者・地域住民との連携

・保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果

⑦教育実習

・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

⑧センター的役割

・幼児教育関係者への研修支援，教員派遣等の状況

Ⅱ　評価項目ごとの自己評価

評価項目１　教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点１　年間の指導計画や週案などの作成はできているか

【観点に係る状況】

幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし，本園の教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成している。今年度は科学的思考を促す幼小接続教育課程作成に向けて，数量感覚やかかわる力の育成の観点から現行の教育課程・指導計画を見直した。その結果，５歳児Ⅱ期からを小学校への接続期に設定して，数量感覚やかかわる力が育っている姿を明示した。

保育の質をさらに高める手立てとして，保育実践の記録と事例収集，並びに本園独自の「保育の計画と記録」と徳島県教育会発行の「教育記録 幼稚園」及び教員個々が作成・利用している保育記録やパソコンによるデータ記録を併用し，保育実践にかかる記録や週案等を作成する手立てとし，今後を見通しやすいように工夫しながら指導計画案の修正と作成を進めた。

【分析結果と根拠理由】

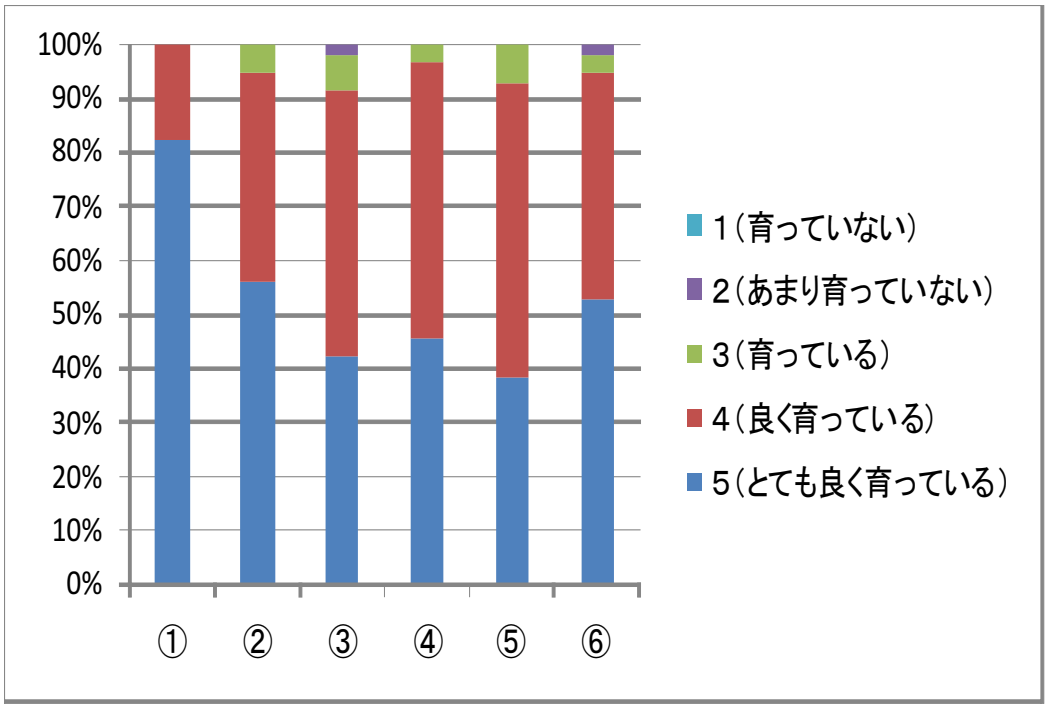
①年長児保護者への科学的思考力の育成についての評価アンケート結果

本園の教育課程を構成する軸の視点から，修了前の年長児保護者に幼児の科学的思考力の育成についての評価アンケートを実施した。質問項目は以下の通りである。

（平成２４年１月１４日実施　５７名）

①「わくわく　どきどき」感動する心が育ってきている
②知的な喜びが身体や身体感覚を通して表れてきている。
③日本の衣食住のさまざまな共有体験が豊かになってきた。
④植物や動物など，自然とかかわりながら生活を豊かにしようとするようになってきた。
⑤科学的にものを見たり考えたりしながら，生活の中のさまざまな問題を解決していこうとするようになった。
⑥友達や家族などのことを理解しようとしたり，人間関係を調整していこうとするようになってきた。
⑦その他，お子様の成長や幼稚園の教育環境のことでお気づきのことがあればお書きください。

ほぼ全ての質問で，「５．とても良く育っている」「４．良く育っている」という回答が返ってきた。⑦の自由記述では，「物事を考えるときに『～だから…なんだ』と自分なりの思考をする場面がよく見られるようになりました。間違っていることもありますが，子どもなりの発想に驚くことがよくあります」「『なぜだろう？何でこんな事が起こるの？』と物事の因果関係やつながりを見いだしている姿をよく目にするようになった」「物事に意欲的に取り組んだり，考えて試したり工夫したりする姿が見られるようになった。してみたいという気持ちになったとき，すぐ試したり作ったりできる環境が整っており，先生方も見守り支援してくれている」などがあった。



②平成23年度附属幼稚園オープンスクール並びに幼児教育研究会におけるアンケート集計結果

本園「生活プラン」（2008.11.20発行）及び2012年2月11日発行の「研究紀要第45集」並びに遊誘財リーフレット№2等の刊行物は，県内外の幼児教育関係者や研究者から評価を得ている。また，研究開発学校１年次の成果として表した幼小接続教育課程についても文部科学省教科調査官や指導・助言担当者から評価を得ている。

また，本園の保育実践や教師の指導力について，幼児教育研究会（来園者３６５名）や本園オープンスクールの参観者（アンケート回答者９９名）に尋ねたアンケート集計結果によると，本園の保育について「とてもよい」との回答が，教育関係者９３％，保護者９９％から寄せられ，教師の姿勢や指導力に関しては，「先生の細やかな心づかいが感じられて子どもたちが安心してのびのび生活している」「適度・適切なサポート・アドバイスがあり見守っていてくださっている。子どもたちは安心して生活できる」「子どもの成長過程をよく見てくれている」「子どもがやりたいことにズレがある時，スッと先生がやってきて必要な援助をし，子どもの活動に返している」等の自由記述が見られた。本園の環境整備について「とてもよい」との回答は，教育関係者９６％，保護者９７％から寄せられた。

資料１－①　平成２３年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（一部抜粋）

平成２３年度　附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

実施日	平成２３年11月３日（木）
対　象	オープンスクール参観者　１９７名　（アンケート回答者９９名）
内　容	１　保育について　　３段階評価及び自由記述
	２　環境整備について　　３段階評価及び自由記述
	３　その他感想・意見　　自由記述

アンケート集計結果

○保育について

・とてもよい	９８名（	９９％）
・あまりよくない	０名（	０％）
・どちらでもない	１名（	１％）
・記入なし	０名（	０％）

○環境整備について

・よく整っている	９６名（	９７％）
・もっと整えて欲しい	２名（	２％）
・どちらでもない	１名（	１％）
・記入なし	０名（	０％）

保育について自由記述の概要

★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

○だれひとり寂しそうな様子もなく，目がきらきらしている。
○みんな自由に楽しくしている。
○のびのびと好きな活動を思いのままに，遊んでいる。
○楽しそうに笑顔いっぱいの様子が見られる。
○全員が生き生きと目を輝かせて活動している。いい表情をしている。

★自主性・主体性・遊びを大切に

○子どもたちがしたい遊びを自由にし，一人ひとり充実した生活をしている。
○子どもたちが自主的に自分がやりたいことを見つけ，取り組む様子が印象的だった。
○思う存分に遊び，豊かな心を育てている。
○自主性が尊重され，子どもたちは好きなことやりたいことに没頭できていた。
○伸び伸びと自主的に活動できるようになってきた。
○友達・先生が一緒になって仲良く楽しく遊んでいる。
●一度はみんなが集まる時間があって，同じことをすることも必要なのかなと思った。

★工夫・創造性

○ダイナミックな遊びができていた。
○創意工夫できる環境があり，遊びが広がっていく。
○子どもの創造力をかき立てるものがいろいろある。
○自分のやりたいことを見つけ，考えながら行動している。

★集団活動・協調性

○自由ではあるけれども，様々なルールが暗黙のうちに守られている。
○年少から年長までのかかわりが自然にあってよかった。
○したい遊びを生き生き真剣にしながらその中で規則や友達との関係を学んでいる。

別添資料　１－①　平成 23 年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料　１－②　平成 23 年度附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料　１－③　平成 23 年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料　５－①　研究紀要第４５集

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

本園の教育課程は以下のような構造をもち，幼児期の発達特性に即した実践の指標となっている。

①「わくわく　どきどき」感動する心を育てる。

②知的な喜びを，身体感覚を通して呼び覚まさせる。

③知恵ある生活（くらし）を受け継ぐ者として育てる。

・日本の衣食住のさまざまな共有体験を豊かにする。

・自然と一体化しながら，日々の生活を豊かにする。

・科学的思考力を身につけ，生活の中のさまざまな問題を解決していこうとする。

④人間を理解し関係を調整していこうとする力を育てる。

【改善を要する点】

今年度は接続期における数量感覚やかかわる力の育成に視点をおいた改善を行ったが，今後はかたちや図形，言葉や文字などについての視点も加えた改善が必要になる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，４段階評価中の「　A　十分達成されている」と判断する。

自己評価の基準

A　十分達成されている

B　達成されている

C　取り組まれているが，成果が十分でない

D　取組が不十分である

※評価項目ごとの自己評価の基準は，以下同じ

評価項目２　保健管理

(1) 観点ごとの分析

観点２　保健計画の作成・実施の状況

【観点に係る状況】

（1）月別の指導計画の見直しの実施

今年度も月別の指導計画を毎月見直し，幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や，月ごとにかかりやすい疾病の予防などについて計画を立て，それに沿って保健管理や保健指導を実施した。夏季は酷暑が続き，保育室に冷房がないため，熱中症になりかけた幼児もあった。そのため，園内での夏の過ごし方については，氷を用いて冷やしたり，木陰で

時々休むように声をかけたり，水分を補給するなど，格別の注意を払うよう努力した。今年度保育室に冷房が設置される予定であったが，東日本大震災のため，製造が間に合わなかった。是非来年度夏までには早急に設置を切望している。また，今年度はノロウイルスによる感染性胃腸炎やインフルエンザが大流行したので，それに備えて引き続き予防や対応に取り組んだ。

（2）保護者への保健指導に関する協力

絵本の貸し出し時間を利用し，各組ごとに保護者に対して講話をしてむし歯予防に対する知識を高めたり，早寝・早起き・朝ご飯などの基本的生活習慣の育成についても養護教諭が計画的に計画して指導をした。伝染性の病気が流行している時などはその予防について情報を提供し，理解を求めた。また，毎月「ほけんだより」を配付して，家庭での指導に役立てるよう協力を求めてきた。

【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て，健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。ただ，緊急を要する対応の必要な場合には，状況に応じて計画を改定していくことが大切であると考える。

資料２－①　保健室１１月の指導計画（一部抜粋）

養護教諭　佐藤恵

ねらい	○風邪・インフルエンザの予防をしようとする。 ○戸外で十分に身体を動かして遊ぶ。 ○気温や自分の身体の調子に合わせて衣服の調節をしようとする。 ○自分の身体を丈夫にするために、好き嫌いなく食べようとする。 ○歯の役割や大切さを知り、口腔の衛生を保とうとする。

指導内容	指導の要点と環境構成
○風邪・インフルエンザ等の感染症の予防をしようとする。 ・家庭で朝、検温をしてくる。 ・うがい・手洗い・アルコール消毒をする。 ・衣服の調節をしようとする。 ○戸外で十分に身体を動かして遊ぶ。 ○丈夫で元気な身体を作るために好き嫌い無く食べようとする。 ・良く噛んで食べることの大切さについて知らせる。 ○歯の役割や大切さを知り、虫歯予防のため、おやつや弁当を食べた後は歯磨きやうがいをする。 ○保健室で休養したり、絵を描い	○感染症の予防について理解し、実践できるようにする。 ・検温をすることによって自分の体温に関心をもたせ、その意義を知らせる。 ・空気中には目に見えないかぜやインフルエンザの菌がたくさんいるので、うがいや手洗いやアルコール消毒が予防に効果的であることを知らせ、上手にできるように援助する。また、換気の大切さやせきエチケットについても知らせ、実行できるようにする。 ・遊んでいて暑くなったとき、１枚上着を脱ぐことで快適に過ごせることや、逆に寒い時は、１枚上着を着せ温かくなることを実感させる。 ○戸外で十分に身体を動かして遊ぶことができるように配慮する。 ・ルールを守って安全に遊ぶことの大切さについて伝える。 ○食べ物の中にある身体を丈夫にする働き、強い力を作る働き、病気から守ってくれたり、いいうんちが出る手伝いをする働き等の栄養素をバランス良く取り入れると元気な身体になることや、バランスが崩れると身体の調子が悪くなること、また、自分の身体の調子を便の状態によって知ることが出来る等を絵本や保健教材を通して伝え、食事することが自分の身体と深く関係があるということを意識させる。 ・保護者に対しても、バランス良く食べることの大切さ、朝食をしっかり食べることにより体温を上げ、身体の動きを良くしたり、脳の働きが良くなりしっかり考えることができるなど、食べることが直接日々の生活に影響することを伝える。また、幼児期に出来るだけ多くの味を体験しておくことが、味覚の発達や生涯を通して食生活

たりして気分を落ち着ける。 ○就学時健康診断やインフルエンザ等の感染症の予防について保護者に伝える。	が豊かになることを伝える。 ○歯みがき指導を行い、幼児や保護者に歯磨きの大切さを知ってもらう。また、おやつや弁当の後に歯ブラシの持ち方を養護教諭が示したり、丁度良い力の加減で幼児の歯を磨いてあげたりして、自分で歯が磨けるように援助する。歯を磨くことにより、口の中が気持ちよくなることを実感させる。乳歯と永久歯の交換時期にある幼児には大人の歯になることの喜びを伝える。また、一生使っていく歯であることを伝えて、生涯大切にしていこうとする意欲を育てる。 ○誰もが親しみをもって来室できるように、自由に絵を描いたり、本を読んだりする環境を整えておく。友達と喧嘩したり、遊びがうまくいかなかったりして来室した幼児に対しては、幼児の話をよく聞き、その子の思いをしっかり受け止めながら、自分のやりたいことに向かっていけるように援助する。何となく来室した幼児に対しては、無理にその原因を追及しようとせず、居心地の良い場所となるように、温かく見守り、幼児の状態を見ながら対応し、気分を立て直して遊びに戻っていけるように支援をする。 ○年長児は、指定された小学校で就学時健康診断を受診しなければならないことを保護者に伝え、子ども達の健康状態をチェックするとともに基本的生活習慣を見直すいい機会とする。また、かぜやインフルエンザの流行時についての注意を呼びかけ、感染予防や体調管理について十分に気をつけるよう伝える。幼児の欠席状況を把握し、出席停止の措置などについては園医に指導を受け、即座の対応を行うための協力を依頼する。

別添資料　２－①
ほけんだより　１１月号

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

指導計画に基づいて保健指導を実施し，職員会において毎月の指導計画を見直し，幼児や園の実態に応じて改定している。

【改善を要する点】

幼児や保護者に対する毎月の保健指導に関し，もう少し改善の必要があると思われる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，４段階評価中の「　A　十分達成されている」と判断する。

評価項目３　安全管理

(1) 観点ごとの分析

観点３　危機管理マニュアル等の作成・活用の状況

【観点に係る状況】

「平成23年度安全管理計画－危機管理マニュアル－」（別添資料３－①）を作成し，それに基づき計画的に安全管理を実施している。また，毎月２０日の学校安全の日には，教職員が２人組で園内の安全点検を実施し，危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなど，対応をしている。また，６月には全教職員が附属小学校の教職員とともに救急法の講習会に参加し，救急処置の最新の方法について知識を得，実技講習を行っている。

資料３－①　防災･避難訓練の実施

① 防災訓練（地震）計画
・ねらい　・実際に地震が起こった時，保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や津波の恐ろしさや，生命や身体を守ることの大切さを知る。
・期　日　　平成２３年５月１２日（木）　９：４５～１０：００

②避難訓練（不審者対応）計画
・ねらい　・実際に保育中不審者が侵入してきた場合，保育者の指示に従って速やかに行動できるよう，安全な避難の仕方を身に付ける。
・期　日　　平成２３年６月２日（木）１０：５０～１１：０５
・状況設定　幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定
不審者が幼小連携畑から幼稚園敷地内に侵入。

③防災訓練（地震・火災）計画
・ねらい　・実際に地震や火災が起こった時，保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や火災の恐ろしさや，生命や身体を守ることの大切さを知る。
・期　日　　平成２３年９月１日（木）　９：１５～９：３５
緊急地震速報を実際に流して訓練を行った。

④幼小合同避難訓練（地震・火災）計画
・ねらい　・実際に地震や火災が起こった時，保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や火災の恐ろしさや，生命や身体を守ることの大切さを知る。
・期　日　　平成２４年１月１０日（火）　　９：４５～１０：００

【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルを作成し，年度当初に職員会で周知しているので，避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めている。

別添資料　３－①　平成23年度安全管理計画－危機管理マニュアル－

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき，毎日，毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより，事故の防止に努めるとともに，幼児に対して安全な避難の仕方を身

に付けさせたり，生命や身体を守ることの大切さを知らせることができるようにしている。地震の避難訓練時には，「緊急地震速報」を実際に流して，震度４以上の地震が起きたときを想定しての避難訓練を実施した。また，毎年，全教職員が救急法の講習会に参加し，救急処置の最新の方法について知識を得る実技講習を実施することで，安全対応の能力の向上に役立てている。今年度修了生の記念品として，全園児用の防災頭巾を寄付してくれる予定である。

ＡＥＤを平成２０年１２月に設置することができ，一層安全管理体制が強化された。また，安全パッドの使用期限を点検し，必要に応じて交換を行っている。

【改善を要する点】

養護教諭が出張や年休などで園内にいないときの対応や，地震・津波などを想定した避難に関するより詳しいマニュアル作成など，新たに検討する必要があると思われる。幼稚園が避難場所になると想定した場合，さまざまな非常用の備品や備蓄などが必要になってくるので，是非大学からの予算措置を早急にお願いしたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，４段階評価中の「　B　達成されている　」と判断する。

評価項目４　組織運営

(1) 観点ごとの分析

観点４　園務分掌が適切に機能するなど，明確な運営・責任体制が整備されているか

【観点に係る状況】

本園は，研究部・教育実習部・教務部の３部に編成した運営体制を組織し，３主任を責任者として配置して，それを園長・教頭が統括するという園務分掌を定めている。

今年度より、県との人事交流による園長が配置され、３附属校長と園長が同格となった。また、昨年度までは，学級担任をしながらの部内教頭であったが，今年度より専任教頭となり，園務の統括と各部への細やかな指導が可能となった。一方で，今年度より教育支援教員制度がなくなったため，週３０時間の非常勤講師１名と週１５時間の非常勤講師２名を配置して対応した。

年度当初に教員の資質・能力・適性に応じて各担当を配置し，人的教育環境としての充実を考慮しながら，互いに協力して園務の能率化・省力化が図れるよう配慮した。なお，園運営に関する事項については，毎月の定例職員会議で，担当責任者が議題や報告にあげ，全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応している。

また，今年度より徳島市との人事交流が再開された。専門の幼稚園教諭の加入により，教育活動の充実が図られた。加えて，本学大学院（高度学校教育実践専攻　学校臨床コース）への現職教員派遣も行い現職教育の充実も図られた。

資料４－①　平成23年度第１回職員会議題

資料４－①　　平成２３年度　第１回　職　員　会　議
鳴門教育大学附属幼稚園

と　き　　平成２３年４月１日（金）　１１：００～
ところ　　附属幼稚園多目的室

議　事　　園　長あいさつ

転入者あいさつ

１　協議事項		（担任者）
(1) 平成２３年度人事異動について	資料１	（園　長）
(2) 平成２３年度　教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料１	（園　長）
(3) 鳴門教育大学附属幼稚園園則・附属学校部規則・同職員会議規程・同部会議規程・同運営委員会規程・同学校評議員規程・同学校関係者評価規程・同大学中期計画中期目標・就業規則・その他申し合わせ　等について	資料２	（園　長）
(4) 平成２３年度　幼稚園要覧について	資料３	（園　長）
(5) 平成２３年度　職員の勤務について	資料４	（園　長）
(6) 平成２３年度　園務分掌について	資料５	（園　長）
(7) 平成２３年度　年間行事計画について	資料６	（教　頭）
(8) 平成２３年度　学年始休業中の計画表	資料７	（教　頭）
(9) ４月の行事予定について	資料８	（教　頭）
(10) 新学期諸準備について	資料９	（教　頭）
(11) 始業式・離任式について	資料10	
(12) 新入園児用品渡しについて	資料11	（辻　本）
(13) 附属幼稚園職員連絡網･教職員名簿について	資料12	（教　頭）
(14) 入園式について	資料13	（教　頭）
(15) 芙蓉会規程について	資料14	（多　田）
(16) みどり会事業計画・奨学寄付金等について	資料15	（教　頭）
(17) 園児緊急連絡網等について		（教　頭）
(18) 変形時間労働制年間カレンダーについて	資料16	（多　田）
２　連絡事項		
(1) 文書整理・情報管理等について		（園　長）
(2) 経費節減について		（園　長）
(3) 歓送迎会について	資料17	（教　頭）
３　その他		
(1)労働環境協議会役員改選について		（園　長）
(2)ハラスメント相談委員改選について		（園　長）

資料４－②　平成23年度園務分掌一覧表（一部抜粋）

＜資料５－１＞

平成２３年度　園 務 分 掌

鳴門教育大学附属幼稚園

- 園長
- 教頭
  - 研究主任（主（鍋　山）　副（杉　山））
    - 研　究
      - 領域研究
        - 健　康（佐　藤）（杉　山）
        - 環　境（辻　本）
        - 人間関係（今　井）
        - 言　葉（松　尾）
        - 表　現（鍋　山）
      - 特別研究
        - 研究開発学校（鍋　山）（佐々木）
        - 人権教育（杉　山）（松　尾）
        - 子育て支援（堀　江）（小　濱）
        - 附属学校一貫教育（佐々木）
        - 食　育（佐　藤）
        - ビデオコンテンツ製作・活用（杉　山）（鍋　山）
        - 特別支援教育（佐　藤）（佐々木）
        - 実践フィールド研究（鍋　山）（辻　本）
  - 教育実習主任（主（松　尾）　副（新　田））
    - 教育実習
      - 計　画（松　尾）（新　田）
      - 指導評価（松　尾）（全　員）
      - インターンシップ研修（佐々木）
  - 教務主任（主（辻　本）　副（佐　藤））
    - 教務
      - 行事
        - 教務行事（佐　藤）（佐々木）
        - 保育行事（辻　本）（杉　山）
      - 公簿
        - 幼児指導要録・幼児の記録・保育計画・出席簿（学級担任）
        - 修了原簿・入退園許可簿・行事計画（多　田）
        - 入園関係表簿（多　田）
        - 教育実習簿（松　尾）
        - 健康診断票・園医等執務記録簿（佐　藤）
    - 庶務
      - 公簿・諸証明・諸連絡・文書収受発送・その他（多　田）
      - 園 日 誌（佐　藤）（佐々木）
      - 沿　革（山　田）（佐々木）
      - 図書台帳（杉　山）（堀　江）
      - 保健日誌・出席状況調べ（佐　藤）
      - 間食日誌（新　田）（佐　藤）
      - 災害予防（佐　藤）（辻　本）
      - 衛生安全点検・衛生安全管理・日本スポーツ振興センター・傷害保険（佐　藤）
      - 印刷・浄書（杉　山）（今　井）（堀　江）（小　濱）
      - 会議
        - 職員会議　主　宰（山　田）　司会（佐々木）　記録（辻　本）
        - 園内研究会　企画・司会（鍋　山）　記録（杉　山）
      - 園児募集（山　田）（佐々木）（多　田）
      - 諸帳簿ファイリング作成・保存（辻　本）（佐　藤）
    - 管理
      - 管 理 棟（山　田）・事 務 室（多　田）
      - 保 健 室（佐　藤）・多目的室（新　田）
      - 各保育室（各担任）
      - 子どもの家（今　井）・花壇・栽培園（松　尾）（小　濱）
      - 保育室東棟２階（今　井）（堀　江）・屋　上（辻　本）（堀　江）
      - 北倉庫（松　尾）・陶芸室（鍋　山）（杉　山）
      - 廊　下（松　尾）・星組前倉庫（小　濱）
      - 遊戯室（松　尾）
      - 園庭倉庫（杉　山）（小　濱）・固定遊具（杉　山）（小　濱）
      - 家禽舎（佐　藤）（小　濱）・備　品（松　尾）
      - 情報機器（鍋　山）（杉　山）・視聴覚機器（杉　山）（小　濱）
    - 会計
      - 校　費（多　田）（山　田）
      - 預かり金（佐　藤）（松　尾）
      - 教材保育費（松　尾）
      - 間食費（佐　藤）
      - 絵　本（杉　山）
      - 保育用品（辻　本）
    - 渉外
      - 文部科学省・教育委員会・附属学校連盟・交流校（山　田）
      - 教育会・保護者会・同窓会（佐々木）
      - 園長会・報道関係（山　田）
      - 市幼主任会（佐々木）
    - 職員厚生（杉　山）（今　井）

【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し，幼稚園運営に行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担し，各々が責任をもって適切にあたり，円滑な園運営がなされている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

園務分掌は，責任担当者を複数体制で細部にわたって明記し，組織の中での責任の所在や業務内容を明確にしている。また，園運営の全体計画は年度当初に示しており，必要に応じてその都度綿密に計画立案した資料を職員会議に提出して協議・決定し，共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしている。

【改善を要する点】

教育・研究・教育実習・子育て支援等，園の業務内容は，ますます肥大化しており，定められた勤務時間の範囲内での遂行は非常に難しい。職員の労働時間の厳守・縮減，業務内容のスリム化，ノー残業デーの完全実施，休日確保等に課題が残る。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，４段階評価中の「　B　達成されている」と判断する。

評価項目５　研修（資質向上の取組）

(1) 観点ごとの分析

観点５　園内研修や園外研修の実施及び参加ができているか

【観点に係る状況】

①園内研究会・合同研究会

研究主任の計画のもと，週１回程度の園内研究会の内，月１～２回程度は合同研究会として他所属（大学・公立幼稚園・小学校等）の教員にも参加を呼びかけて次表のように開催した。特に大学教員の参加が多くあり，共同研究を推進している。また，本学幼年発達支援コース田村隆宏教授を中心に日本学術振興会科学研究費補助金の交付を受け，本園の研究を広く情報発信するために発刊した「遊誘財リーフレット№１」は高い評価を受けている。今年度は平成２３年度幼児教育研究会に合わせ,「遊誘財リーフレットNo.2」を発刊した。また、本研究にかかるビデオ撮影・資料収集等のための人員を１０月から２月まで確保できたことも研究推進につながった。

今年度は文部科学省より研究開発学校の指定を受け,「幼小接続の教育課程開発―遊誘財が引き出す科学的思考―」の研究主題のもと，遊誘財とかかわる中で幼児の科学的思考がどのように芽生え，小学校以降の学習につながっていくのかについて研究を行っている。幼児期から児童期にかけての発達や学びの連続性を科学的思考力の視点で捉え，接続期にふさわしい指導方法やカリキュラムの開発をおこない，小学校への円滑な接続を図った。初年度で

ある今年は，主に幼児期に育つ力や，育った力が小学校にどのようにつながっているかを明らかにするとともに幼小の接続期を設定し，教育課程を試作した。

合同研究会は，遊誘財データベース検討部会と幼小接続教育課程開発部会にわかれてすすめた。遊誘財データベース検討部会では，各自が記録を持ち寄り事例研究・保育カンファレンスを行ったり，各担任の研究保育及び保育協議を行ったりする中で，幼児の発達や遊誘財の中身について科学的思考力の育成の視点から分析をし，遊誘財データベースの作成をすすめた。幼小接続教育課程開発部会は，附属小学校教員の参加もあり合同保育／授業の計画や授業内容・教材などについて開発をすすめた。平成２３年度幼児教育研究会においてその成果を発表した。

資料　５－①　平成23年度合同研究会開催日

月	日		部会名	協議の内容
4	19日（火）			園内研①：本年度の研究と幼児教育研究会について打合せ
5	17日（火） 18日（水） 23日（月）	13:30～14:30 15:00～16:00 14:00～		合同研：第一回運営協議会（文科省ヒアリング報告） 園内研②：記録の書き方についての研修（佐々木晃講師） 園内研③
6	３日（金） ６日（月） ９日（木） 14日（火） 15日（水） 16日（木） 21日（火）	9:15～ 9:15～ 9:30～ 13:30～15:30 9:30～ 13:30～15:30 13:30～15:30	 遊誘財 幼小 遊誘財	幼小合同保育授業「ザリガニつりにいこう」（2組3組と山川） 園内研④ 幼小合同保育授業「さつまいもプロジェクト」（1組と山川） 幼小合同保育授業「がっこうたんけん」（1組と山） 合同研①：事例研究会 幼小合同保育授業「がっこうたんけん」（3組と川） 合同研① 合同研②
7	19日（火） 21日（木）	13:30～15:30 13:30～15:30	遊誘財 幼小	合同研③ 合同研②
8				＊臨時開催
9				
10	４日（火） ６日（木） 18日（火） 25日（火） 27日（木）	13:30～15:30 13:30～15:30 13:30～15:30 13:30～15:30 13:30～15:30	遊誘財 幼小 遊誘財 遊誘財 幼小	合同研④ 合同研③ ＊秋休み中については未定 合同研⑤ 合同研⑥ 合同研④
11	１日（火） 15日（火） 22日（火） 24日（木）	13:30～15:30 13:30～15:30 13:30～15:30 13:30～15:30	遊誘財 遊誘財 幼小	合同研⑦ 合同研⑧ 合同研：第２回運営協議会（研究発表内容・紀要分担相談） 合同研⑤
12				＊臨時開催
1	５日（木） 12日（木） 17日（火） 19日（木） 24日（火） 26日（木） 31日（火）	13:30～15:30 13:30～15:30 13:30～15:30 13:30～15:30 13:30～15:30 13:30～15:30 13:30～15:30	幼小 幼小 遊誘財 幼小 遊誘財 幼小 遊誘財	合同研⑥ 合同研⑦ 合同研⑨ 合同研⑧ 合同研⑩ 合同研⑨ 合同研⑪
2	２日（木） 11日（土） 21日（火）	13:30～15:30		合同研 平成23年度幼児教育研究会 合同研：第３回運営協議会（反省と評価）

今年度２月１１日(土）に附属小学校と同日開催した幼児教育研究会では，３６５名の参会者を得て，「幼小接続の教育課程開発―遊誘財がひきだす科学的思考―」のテーマで発表を行い，東京大学大学院教授の秋田喜代美先生を指導助言・講師にお迎えした。今後さらに研究内容を深めたいと考えている。

②その他園内研修

保育技術のスキル向上のため，職員や一部保護者を講師として研修を計画し，次のよう

な研修を実施した。

・七宝焼き研修　・あやとり研修　・リズム表現研修　　等

③園外の研修会等への参加

・文科省等主催の研修　幼稚園担当指導主事・担当者会議　１名
　幼稚園教育理解推進事業中央協議会　１名
　研究開発学校連絡協議会　１名
・全附連・四附連・近畿四国附連等の研究会　等
・日本保育学会
・日本生活科・総合的学習教育学会
・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園長会，国・県幼稚園教育課程研究協議会，養護教諭研修会，学校保健安全研究協議会，幼稚園等新規採用教諭研修，　等
・全国及び県・市幼稚園教育研究協議会，全幼研，教育会主催の研究会　等
・その他セミナー・学会・研究会　等

上記のような数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し，そこで発表や話題提供なども行っている。今年度に係る発表等は次のとおりである。

・日本保育学会第６４回大会（玉川大学）では,「保育の質的向上を目指す遊誘財研究（２）－鳴教大附幼の取り組み－」のテーマで鍋山由美教諭が，幼児が自主的に環境にかかわる中で遊びや学びを生み出す過程について，具体例を挙げて話題提供をした。
・平成２３年度幼稚園教育研究集会群馬大会では、佐々木教頭・鍋山由美教諭が、「遊誘財が引き出す科学的思考」のテーマで、幼児期における科学的思考の芽生えを促す遊誘財と、５歳児期にふさわしい教育課程・指導計画の構造化の取り組みについて提案した。

【分析結果と根拠理由】

毎週定例の園内研究会や合同研究会で，今年度の研究テーマに取り組んできた。数や量に焦点を当てて，幼児期の遊びや生活の中で芽生えた学びが，小学校での自覚的な学びへとどのような道筋をたどって育っていくのかを考察した。それをふまえて，幼小接続の教育課程（試案）を作成したので，来年度からの幼小合同活動の計画に生かしていきたいと考えている。日々の保育記録や幼児の記録，エピソード記録等を元に保育カンファレンスを実施し協議を重ねたり，今年度も研究保育を実施したことは，教員の指導力向上に直結し，保育の質の向上に寄与したと思われる。

また，園外での研究会・研修会の参加も多岐にわたり，参加職員による報告会をもつなどして職員全体で現在の幼児教育に関する最新の情報を共有している。このことから，教員の資質向上のための園内外での研修は充実していると言える。

別添資料　５－①　研究紀要第４５集「幼小接続の教育課程開発－遊誘財がひきだす科学的思考－」（2012.2.8発行）
別添資料　５－②　遊誘財リーフレット№２（2012.2.8発行）
別添資料　５－③　平成23年度出張一覧

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

合同研究会では，特に本園の実態や教育理念に理解のある方々の多面的な視点からの保育カンファレンスで協議が深められた。これまで構築してきた実践資料を整理し，実際に保育を行った保育者らによる保育記録の分析がすすめられた。

大学教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり，教員の指導力・資質向上に確実につながっている。また，幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき，広い視野で保育の質を考えることができた。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は，他所属の教員との交流や意見交換ができ，自らの実践を見直したり，新たな刺激を受けたりでき，教員の教育研究へ向かう意欲が高まっている。また，研修会参加者は研修報告を行うことで研修成果を全職員に伝達している。

担任外教員（非常勤講師）が配置されていることや，派遣旅費の一部は保護者からの奨学寄付金から支出しているため，数多くの研修会への派遣が可能となっている。

【改善を要する点】

これまで本学幼年発達支援コースの先生方を中心に研究会を重ねてきたが，本学附属小学校や自然系コース（数学）の先生方の参加も得られ，より多方面から幼児の発達の専門的理解が進んだ。大学附属の利点を生かし，豊かで質の高い大学の人的・文化的環境を本園の教員の資質向上を図る研修に活用できるよう，多面的な連携研究を積極的に働きかけたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，４段階評価中の「　A　十分達成されている」と判断する。

評価項目６　保護者・地域住民との連携

(1) 観点ごとの分析

観点６　保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果はどうなっているか

【観点に係る状況】

資料６－①　オープンスクールでの保護者・参観者を対象とするアンケート集計結果(一部抜粋)

オープンスクールアンケート集計結果

※実施日　　平成23年11月3日（木）
※回答者　　オープンスクール参観者　　197名（アンケート回答者99名）
※アンケート集計結果
○保育について

・とてもよい	98名（99%）	・あまりよくない	0名（ 0%）
・どちらでもない	1名（ 1%）	・記入なし	0名（ 0%）

○環境整備について

・よく整っている	96名（97%）	・もっと整えて欲しい	2名（ 2%）
・どちらでもない	1名（ 1%）	・記入なし	0名（ 0%）

資料６－②　平成23年度参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果

アンケート項目	A	B	C	D	無	計
① 本園の環境は、幼児期にふさわしい教育環境でしょうか。	113 94.96%	5 4.20%	0 0.00%	0 0.00%	1 0.84%	119 100.00%
② 本園の目指す教育目標や教育方針は、適切でしょうか。	114 95.80%	3 2.52%	0 0.00%	0 0.00%	2 1.68%	119 100.00%
③ 幼児の基本的な生活習慣自立への援助は適切でしたか。	102 85.72%	10 8.40%	0 0.00%	0 0.00%	7 5.88%	119 100.00%
④ 幼児は、豊かな自然体験や直接体験ができていましたか。	102 85.71%	11 9.24%	1 0.84%	0 0.00%	5 4.20%	119 99.99%
⑤ 幼児は、創造的な表現活動ができていましたか。	95 79.83%	21 17.65%	0 0.00%	0 0.00%	3 2.52%	119 100.00%
⑥ 幼児は、遊びの中で試したり考えたりする学びが得られていましたか。	103 89.57%	12 10.43%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	115 100.00%
⑦ 幼児は、友達と一緒に、楽しく充実した園生活ができていましたか。	100 85.47%	17 14.53%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	117 100.00%
⑧ 一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていましたか。	97 81.51%	14 11.76%	0 0.00%	0 0.00%	8 6.72%	119 99.99%
⑨ 施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか。	93 78.15%	19 15.97%	2 1.68%	0 0.00%	5 4.20%	119 100.00%
⑩ 大学との連携による研究成果が、教育実践に生かされていましたか。	67 56.30%	23 19.33%	0 0.00%	0 0.00%	29 24.37%	119 100.00%
⑪ 保護者も子育てについて学び、共に育ちあう雰囲気ができていましたか。	92 77.31%	14 11.76%	0 0.00%	0 0.00%	13 10.92%	119 99.99%
⑫ 来客に対する本日の教職員の応対は、適切でしたか。	115 96.64%	2 1.68%	0 0.00%	0 0.00%	2 1.68%	119 100.00%

【A;そう思う　B;だいたいそう思う　C;あまり思わない　D;そう思わない　無;無回答】

※実施日：平成23年4月～24年2月　※対象者：一般・教育関係者等来園者119名

今年度も次の４種類のアンケートを実施した。

①オープンスクール参観者対象アンケート　１９７名　平成23年11月3日
②参観者及び研修会参加者によるアンケート　１１９名　平成23年4月～平成24年2月
③幼児教育研究会参加者対象アンケート　３６５名　平成24年2月11日
④年長児保護者対象幼稚園評価アンケート　５７名　平成24年1月14日

保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果は，上記のとおりである。保護者対象のアンケートにおける項目はいずれの項目もＡ評価が大半を占めている。幼稚園の参観者・研修会参加者などのアンケートではＡ・Ｂ評価が多いが，⑩大学との連携による研究成果の生かし方，⑪保護者の子育てに関わる項目などが少し評価が下がっている。

【分析結果と根拠理由】

オープンスクールのアンケートは「保育について」と「環境整備」の２つの観点において「とてもよい」という評価結果となった。ただ，空調設備や教職員数において，もっと整えてほしいという意見もいただいた。

保護者対象アンケートの集計結果では，本園教育に対する評価はほとんどの項目についてＡ評価が90％以上という高い水準になっている。しかし，保護者が子育てのことで相談しやすい体制になっていたかという点で，課題が残る結果となった。

参観者（教育関係者・一般参観者）のアンケート結果からも，全体的に高い評価が得られているが，オープンスクールの結果とおなじく，施設・設備面で厳しい評価も受けた。
設問項目にある，大学との連携による研究成果が，どう教育実践に生かされているかや保護

者の子育てについての設問は，目前に参考となる資料がないため，わかりにくく無回答が多くなってしまった。他の項目より評価が低くなった要因ではないかと考える。また，わからない点は無記入でよいという事前の説明も影響していると考える。

別添資料　１－①　平成23年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果 別添資料　１－②　平成23年度幼児教育研究会アンケート集計結果 別添資料　１－③　平成23年度幼稚園評価アンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

本園の保育内容や方法・環境が特に優れているという評価を得られた。保護者からのアンケート結果については，教職員間で考察・検証を行い，後に解説付きの報告書を回答者全員に配付する。内容については，年少・年中児の保護者も含む保護者会で，結果について情報提供し，今後の園経営について理解・協力を求めている。

【改善を要する点】

環境整備・人員確保については，大学への要望もふくめ検討が必要である。

参観者が評価する時に，参考となる具体的情報を事前・事後に細かく説明したり，質疑応答に応じたりはしているが，不十分であった。評価対象者によって評価項目について検討するなど，評価しやすい条件を整えることや，資料提示の工夫が必要であると考える。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，４段階評価中の「　A　十分達成されている」と判断する。

評価項目７　教育実習

(1) 観点ごとの分析

観点７　専門性や実践力を養う教育実習の実施ができているか

【観点に係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は，次のとおりである。

①ふれあい実習　　９月１２日

学部１年生幼児教育専修５名・長期履修生（大学院）２名

目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより，教職及び幼児理解を深める。子どもとのふれあいを通して，体験的に子どもの姿を学びとり子どもの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに，教職に向けての自己課題を明確にする。

②附属学校園観察実習　６月１４日，１５日

学部３年生５名・長期履修生（大学院）２名

目的：附属幼稚園での保育参加を通して「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり，実習生の取り組みや附属教員の実習指導の様子を受けとめたりすることにより，教育実習への自己課題の明確化を図る。

③附属校園実習・教員インターンシップ　オリエンテーション　　７月１２日

学部３年生５名・長期履修生（大学院）２名・教員インターンシップ１名

④附属学校園実習　　９月５日～９月３０日

学部３年生５名・長期履修生（大学院）２名

目的：学習指導，幼児，生徒指導，学級経営など，教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより，「教師として具有すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。計画表は＜資料７－①＞

⑤教員インターンシップ　　９月５日～９月１６日

学部４年生中学校教育専修美術科教育コース１名

目的：これまでの実地教育の成果を生かしつつ実習に取り組み，教育実践力の向上を図る。教職を目指す者として自覚を強めるとともに新たな自己課題の明確化を図る

保育実習について

毎日，担任指導教員に教育実習録・保育案を提出し，週に１度，観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。当初は，指導計画立案に長時間を要していたが，少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになってきた。保育後は，その日の幼児の生活ぶりを記録し，保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など，自らの言動を振り返りながら，子どもの姿を通して，保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

また，週ごとに＜資料７－②＞の自己評価を実施し，自分の課題が明確になっていった。

資料７－①　附属学校園実習　実地教育計画表

平成23年度　鳴門教育大学附属幼稚園　実地教育計画表

（○全体　●学級・学年）

週	月／日	曜	行事	実習要項	指導要項	時間	備考
1	９月５日	月	教育実習開始 対面式	観察参加	○教育実習の意義（園長） ●９月の指導計画について ●第１週保育内容について ●記録の取り方について	13:30～14:00 14:00～16:30	諸書類提出 記念写真撮影
	９月６日	火		保育(一部)	○本園の教育について（園長） ○幼児理解と幼児指導について（辻本） ○領域研究・環境（辻本）	13:30～14:00 14:00～14:30 14:30～15:00	
	９月７日	水		保育(一部)	○本園の教育課程・指導計画・日案（佐々木） ○学級経営・学級事務（佐々木） ○領域研究・表現（鍋山）	13:30～14:00 14:00～14:30 14:30～15:00	入園希望者参観
	９月８日	木	（白露） 研究保育	観察参加	○家庭との連携について（新田） ○保育説明・保育協議（各担任）	13:30～14:30 14:30～16:00	
	９月９日	金	（救急の日）	保育(一部)	○教育講演会参加 ●第２週保育内容について	13:30～16:00 16:00～17:00	教育講演会
	９月10日	土					
	９月11日	日					
2	９月12日	月	ふれあい実習（1年） 午後保育日	保育(一日) 前半・後半	○領域研究・言葉（松尾） ○環境整備	14:30～15:00 15:00～16:30	第１週記録 第２週計画提出
	９月13日	火		保育(一日) 前半・後半	○本園の人権教育について（杉山） ○領域研究・人間関係（佐々木）	13;30～14:00 14:00～14:30	入園希望者参観
	９月14日	水		保育(一日) 前半・後半	○保健・安全指導について（佐藤） ○領域研究・健康（佐藤）	13:30～14:00 14:00～14:30	
	９月15日	木		保育(一日)	○行事教育ー運動会・園外保育について(鍋山) ●４年生評価保育案作成	13:30～14:00 14:00 ～	
	９月16日	金	教員ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ終了 午後保育日	保育(一日) 前半・後半	●４年生評価保育反省会 ○研究保育者決定・評価保育日程について（松尾） ●第３週保育内容について	14:30～15:30 15:40～16:00 16:00～17:00	
	９月17日	土					
	９月18日	日					
3	９月19日	月	敬老の日				
	９月20日	火	学校安全の日	保育（一日）	○研究保育案作成	13:30～15:30	第２週記録 第３週計画提出

	９月21日	水	午後保育日	保育（一日）	○研究保育案作成（印刷・環境準備）	14:30～16:30	入園希望者参観
	９月22日	木	実習生研究保育	研究保育	○研究保育反省会 ●第４週保育内容について ○評価保育について	13:30～15:00 15:00～16:30 16:30～16:45	
	９月23日	金	秋分の日				
	９月24日	土					
	９月25日	日					
４	９月26日	月	午後保育日	保育（一日）			第３週記録 第４週計画提出
	９月27日	火			●評価保育①指導案作成	13:30～14:30	
	９月28日	水	午後保育日	評価保育①（一日）	●評価保育①反省会 ●評価保育②指導案作成	14:30～15:30 15:30～16:30	
	９月29日	木	誕生会	評価保育②（一日）	●評価保育②反省会	13:30～14:30	
	９月30日	金	教育実習終了	保育（一部）	○教育実習反省会	13:30～15:00	
	10月８日	土	運動会				
	10月９日	日	運動会予備日				

資料７－②　自己評価観点表

評価観点	第　一　週	第　二　週
幼児理解	・観察参加の中で幼児の行動観察記録をとり，遊びに込められた教育的意義について考察する。 ・自分のかかわった幼児を中心に，遊びの様子やエピソードを記録する。	・幼児の行動観察記録やエピソード記録をとり，遊びに込められた教育的意義について考察する。 ・幼児の行為（現象）について記録し，その意味について考察する。 ・一人一人の幼児の発達の状況と指導の重点について記述し，幼児理解を進める。
環境の構成と指導案の作成	・指導教員の保育を観察し，環境の構成や具体的な指導について記録し，基本的な保育の構えと意味について理解する。 ・幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 ・教育課程と指導計画について理解を進める。 ・一部保育場面についての指導案を作成し，指導を行う。	・教育課程と指導計画の関連について考察しながら，一部保育場面及び一日の保育についての指導案を作成し，指導を行う。 ・幼児の実態（興味や関心，発達の状況など）について研究しながら，実際に環境の構成を行い，その結果について考察する。 ・幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。

		・園外保育の下見，指導案の作成，指導の実際などを通して地域環境を取り込んだ保育実践の展開や留意事項，危機管理について理解する。
幼児とのかかわり（指導の実際）	・指導教員の保育の実際について観察し，保育後のカンファレンスに参加する。 ・自分自身の幼児とのかかわりを記録し，意識化を図りながら，指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。	・幼児の実態（興味や関心，発達の状況など）についての読み取りと，実際の指導，幼児の反応や活動を相互に関係づけながら省察する。 ・自分自身の幼児とのかかわりを記録し，意識化を図りながら，指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。
保育評価と省察	・指導教員の保育の記録をとり，教師の意図や幼児との応答の様子，幼児の活動の変化について考察する。 ・幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。	・自分自身の保育の記録をとり，環境の構成，教師の意図，幼児との応答の様子，幼児の活動の変化についてディスカッションし考察する。 ・幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。
学級経営と学級事務の実際	・指導教員より学級の実態や学級経営方針について説明を受け，それについてのディスカッションを行う。 ・学級事務についての考え方について説明を受ける。	・指導教員と共に学級事務にかかわりながら実務を体験する。 ・保健・安全指導について養護教諭並びに担任から講話を受ける。 ・同和教育・人権教育について講話を受け，ディスカッションの中で課題を意識化させる。 ・家庭との連携について講話を受け，幼児を取り巻く諸環境や保育実践の背景について理解する。
自己評価観点の形成	・自己課題をもって保育観察及び幼児の観察ができたか。 ・保育観察，講話，ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲，態度であったか。	・自己課題をもって保育ができたか。 ・一人一人の幼児についてどのように理解が進んだか。 ・保育観察，講話，ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲，態度であったか。

【分析結果と根拠理由】

今年度も，幼稚園における幼児との直接的なかかわりの過程をとおして，指導教員のもと，教職の体験を積み，教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。実習生は，教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと実習に取り組み，子どもと共に生きるという基本事項についての気付きや課題の明確化がそれぞれに図れた実習となった。

教育実習とは別に，幼年発達支援コースとの自然プロジェクト（フレンドシップ事業による）や「夏期保育」のボランティアとして学生が保育参加する中で，より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ，実習にもよい影響が感じられる。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり，保護者からも多くの支持を得た実習であった。

資料　１－③　平成23年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）

教育実習生のお子様へのかかわりで気付いたことをあげてください

「子どもの事をよく考えてかかわっていただいた」「積極的にかかわっていただき，短期間で子どものことをみてくださり，気づいてくれている事がうれしかった」「毎日元気に明るく，ひとりひとりに話しかけようとする態度が良かった。若い教育実習生は子どもたちに人気です」「子どもに近い目線でかかわってくれ、とても熱心に温かく接してくれた。挨拶や態度もきびきびしており感心した」などの記述があった。

別添資料　　１－③　平成23年度幼稚園評価アンケート結果報告書

（２）優れた点・改善を要する点

【優れた点】

・教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと実習に取り組み，子どもと共に生きるという基本事項についての気付きや課題の明確化がそれぞれに図られ，多くの成果が得られた実習となった。

・実習開始以前に，本園や幼児とのかかわりをもつ機会を増やしたことによって，教育実習によい影響を及ぼしたり幼児理解が深まりやすくなったりした。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより，実習期間中の指導・対応もしやすい。

【改善を要する点】

・教育実習生への全体指導の項目数が多いため（７－①　実地教育計画表参照）１日の保育を振り返り反省する時間や，翌日以降の保育計画立案，教材研究などをする時間が十分に確保できなかった。指導項目数の見直しが必要である。

・教育実習中の本園教員の勤務時間は，変形労働時間制で１日１０時間勤務となっているが，それ以上の長時間勤務となっているのが現状である。

（３）評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，４段階評価中の「　A　十分達成されている」と判断する。

評価項目８　センター的役割

(1) 観点ごとの分析

観点８　幼児教育関係者への研修支援及び教員の派遣はできているか

【観点に係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。

今年度の具体的な研修支援，教員派遣，研修会会場提供としては，次のとおりである。

・全幼研徳島支部の事務局を本園におき支部の研修を企画運営（学習会，総会，理事会）
・教育講演会の開催
・教員の県内外研修会への講演講師の派遣（兵庫県伊丹市・兵庫県姫路・市香川県三豊市・高知県香南市・徳島県徳島市・吉野川市・三好郡市幼教研・板野郡幼研など24件。今年度より専任教頭制になったため講演等の研修支援が行いやすくなった。）
・合同研究会の開催
・平成23年度幼児教育研究会の開催（365名の参加）
・徳島県教育委員会主催の研修会への講師派遣（教頭3件・辻本教諭1件）
・県新規採用研修・新任園長研修会の会場の提供・講師派遣
・平成23年度幼稚園新規採用教諭研修・保育技術協議会等，県教委主催の研修会への講師派遣
・文部科学省の幼稚園教育指導資料作成協力者としての協力（教頭）

【分析結果と根拠理由】

以上のとおり，幼児教育関係者への研修支援および教員の派遣はできている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

県内外より講演依頼があり，幼稚園教育についてや教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしている。

【改善を要する点】

講師として派遣している職員が勤務時間中に研修会などに出席しているため，その分の仕事を消化するには超過勤務とならざるを得ない状況である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，４段階評価中の「A　十分達成されている」と判断する。

その他

(1)教育環境の整備

①ブランコの移設・年少用１基増設（附属小学校プール横）②星組保育室へのエアコン設置

Ⅲ　自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	資料番号	資　　料　　名
1	１－①	平成23年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	１－②	平成23年度幼児教育研究会アンケート集計結果
	１－③	平成23年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	５－①	研究紀要第４５集
2	２－①	ほけんだより 11 月号（2011.11.1 発行）
3	３－①	平成23年度安全管理計画－危機管理マニュアル－
5	５－①	研究紀要第４５集「幼小接続の教育課程開発－遊誘財が引き出す科学的思考－」（2012.2.8発行）
	５－②	遊誘財リーフレット№2（2012.2.8発行）
	５－③	平成23年度出張一覧
6	１－①	平成23年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	１－②	平成23年度幼児教育研究会アンケート集計結果
	１－③	平成23年度幼稚園評価アンケート結果報告書
7	１－③	平成23年度幼稚園評価アンケート結果報告書